

演題で、地域特性を考慮した高齢者の居住地移動と健康状態の関連についての研究発表を行い、ワークショップ組織者をはじめとする参加者から有意義なコメントを得るとともに、今後の共同研究に向けた情報交換を行った。

なお、本研究部会の次回ワークショップは、2015年9月にチェコのプラハ経済大学で開催される予定である。(中川雅貴 記)

日本地理学会2014年秋季学術大会

日本地理学会2014年秋季学術大会が2014年9月20～22日（22日は巡検のみ）に富山大学五福キャンパス（富山県富山市）において開催された。一般発表94件、ポスター発表45件のほか、9つのシンポジウムで59件の発表があり、市町村合併に関するシンポジウムで富山市長が講演するなど開催地域の特徴が活かされた大会であった。地域人口関連分野では下記の報告が行われ、活発な質疑がなされた。

- 「2009年新型インフルエンザ A (H1N1) pdm の流行とローカルな伝播過程」
.....荒堀智彦（首都大・院）
- 「2010年国勢調査の人口移動集計における都道府県間移動数の補正」
.....小池司朗（国立社会保障・人口問題研）
- 「老衰死亡率の季節変化」.....北島晴美（信州大）
- 「東京大都市圏郊外における子育て世帯の居住地移動—川崎市麻生区の事例」
.....佐藤 将（横浜市立大・院）
- 「東京・京阪神大都市圏における若年未婚単身世帯のコーホート分析—1990～2010年」
.....桐村 喬（東京大）
- 「地域人口の将来推計における出生指標選択の影響—都道府県別の分析」
.....山内昌和（国立社会保障・人口問題研）
- 「チェルノブイリ原発事故被災地の人口変化—福島復興に向けて」
.....花岡和聖（東北大）・カラチョニイ デイヴィッド（ハンガリー科学アカデミー）
(山内昌和 記)

健康寿命国際ワークショップ 総合健康指標の国際協調に向けて

平成26年10月14日（火）13:30から、日本大学桜門会館にて、「健康寿命国際ワークショップ 総合健康指標の国際協調に向けて」が開催された。この国際ワークショップは、厚生労働科学研究（厚生労働科学特別研究事業）「健康寿命の国内と海外の現状把握と分析評価に関する研究班」の主催により、研究者・行政関係者・その他健康寿命に関心のある者を対象に行われたものである。また、この国際ワークショップと連携する形で、学術ワークショップが翌日の10月15日（水）、さらに関係者等によるミーティングが14日（火）の午前、16日（木）の午前に開催された。当研究所からは、金子隆一副所長、林玲子国際関係部長、別府志海情報調査分析部第2室長と筆者が参加した。

14日（火）午前の国際ワークショップでは、最初にコーディネーターの齋藤安彦日本大学教授の挨拶に続き、主に政策担当者からの観点として、厚生労働省健康局がん対策・健康増進課江副副所長ががん対策推進官より「日本の健康増進政策における健康寿命の重要性」、また、内閣官房健康・医療戦略推